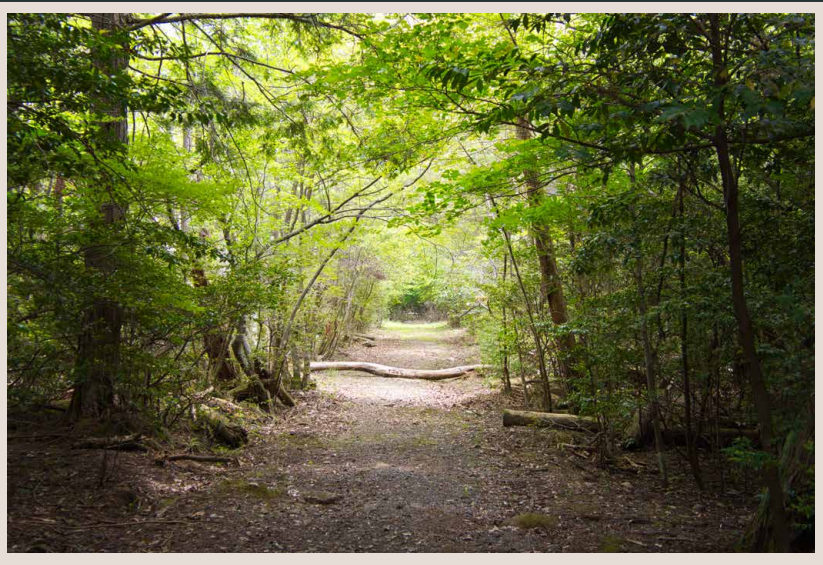


# 大久野通信 vol.14

里山への道のり（来夏に向けて）



「秋の日はつるべ落とし」の諺通り、すっかり日が短くなりました。活動拠点は西側に山が迫っており、午後4時には薄暗くなってしまう。作業可能な時間は短くなりましたが、なんとか冬野菜の準備は一段落、いよいよ里山整備のシーズン突入です。雑草たちに覆われた夏の惨状が未だ脳裏に焼き付いていますので、そうなるも整った風情が感じられるようにできないか、そんな思いで今年の冬も汗をかきます。

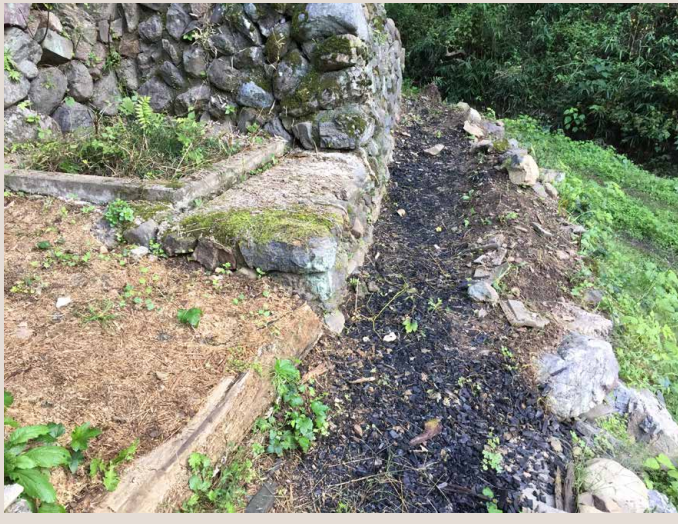
## INDEX

- ・雑草たちとの勝負、結果は・・・
- ・実りの秋
- ・秋冬モード
- ・今後の展望

## 雑草たちとの勝負、結果は・・・

冬場に雑草を根から除去し、試験的に竹炭や竹粉で覆って夏を迎えました。何れも草は茂り、刈っては生えてを繰り返すのですが、除草作業の負荷は軽くなりました。竹粉で覆った所は、竹炭に比べて幾分生育が抑えられている印象です。恐らく、竹粉の粒子が細かいため遮光性が高かった可能性が有ります。粒子が荒い竹炭は、遮光性は劣るものの吸湿性には優れており、水捌けの悪い箇所の改善には重宝します。野焼きも試しましたが効果は限定的、直ぐに新しい芽吹きで元通りでした。

何れの方法も、残念ながら雑草の完全抑制はできませんでした。猛暑の草刈りは、定期イベントと諦めるしかない様です。



除草後に竹粉・竹炭を敷設



1ヶ月程度経過した状況



火炎バーナーで野焼きを実施



3週間後程度の様子（手前は除草後）

## 実りの秋

師走まで2ヶ月を切りました。ひと月前に稲架(はさ)掛けした稲は乾燥が進み、間もなく脱穀です。年末には、日の出三六会さん主催の餅つき大会が予定されています。一方、畑では紅はるかと落花生の葉が茂っています。試し掘りで順調な生育も確認できました。12月初旬には収穫祭を計画しています。



稲架(はさ)掛けした稲



収穫前の落花生畑

## 秋冬モード

夏場にトウモロコシやスイカを育んだ畑は、白菜、レタス、大根、ニンジン、チンゲン菜といった冬野菜に衣替えしました。昨年は仕掛かりが遅れ、特に葉物は霜害を受け大失敗でした。その反省を踏まえ、今年は10月初旬に植付を完了させました。大根とニンジンは、間引き不足による生育不良を経験しましたので、今年は思い切った間引きを実施します。実証畑は粘土質で、乾燥すると固く締まり、雨が降ると靴裏に纏わりつくイメージです。作物栽培には不向きな土質ですが、RBSゴールドで改善できるのか、調査は継続していきます。



レタスと白菜



人蔘とチンゲン菜と大根

## 今後の展望

紅葉が山を飾る季節は、同時に落ち葉が悩みの種です。針葉樹の杉も例外ではなく、枯れ葉が堆積するので掃き掃除は欠かせません。厄介者の杉の葉ですが、昔は防虫や抗菌目的で利用されていたそうです。また、その成分は花粉症に効くなんて話も。まあどうせ掃き溜めますから、先人たちの言い伝えを頼りに畑に撒いてみようかと。栽培では「マルチ」と呼ばれる黒色樹脂フィルムの遮光効果で雑草を抑制しますので、先ずこの代替になれば廃プラスチックを出さなくて済みます。加えて害虫被害が減少してくれたら面白い。落ち葉や枝打ちで発生する緑葉はそのまま朽ちていだけなので、それらが農業の諸々課題に役立てば資源の有効活用です。いろいろ文献は有るので、効果があつたらその考察は出来るでしょう。「先ずはカラダを動かしてその先の世界を見る」、これが大久野倶楽部の大切にしている姿勢です。果たしてどんな結果になるか、乞うご期待を！